

巻頭言

予防鍼灸研究会雑誌 第3巻発刊に寄せて

皆様、予防鍼灸研究会の雑誌第3巻をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。

本号では、「フレイル」を主題に、臨床・研究・思想の各側面から深く掘り下げた多彩な内容をお届けいたします。超高齢社会において、フレイルは健康寿命に直結する課題であり、予防や早期介入が重要視されています。とりわけ、身体だけでなく心理・社会的側面にも目を向けることが求められる中で、鍼灸や養生の実践は、その有効な手立ての一つとして注目を集めつつあります。

なお、この概念はもともと Fried らによって提唱され、日本では日本老年医学会が2014年に「高齢期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害、要介護状態、死亡などの転帰に陥りやすい状態」として定義が示されています。

本号の企画背景には、2024年に開催された関連するテーマの定例会や特別例会、そして同年11月10日に開催された第24回日本早期認知症学会学術大会における合同シンポジウム「東西医療からフレイルを読み解く」があります。西洋医学を中心とする多職種の学会において、東洋医学・鍼灸の視点からフレイルに向き合う意義を提示できたこの機会は、当会にとっても新たな挑戦であり、大きな意味を持つものでした。

誌面では、フレイルの中核にあるアパシーの臨床的意義を深く掘り下げた湯浅龍彦先生の総説をはじめ、江川雅人先生による認知症に対する鍼灸治療の実践的考察、山岡傳一郎先生による現場でのフレイル対応、足立克仁先生らによる地域における取り組みの報告など、多彩な論考が揃いました。また、東洋医学の思想的基盤にある「易」の世界を照らしてくださった内原拓宗先生の講演録や、現場の声を綴った読み物も収録し、フレイルという複合的な現象を多面的に捉える誌面構成となっています。

予防鍼灸研究会は、鍼灸・あん摩マッサージ指圧を通じて、個人の養生と社会の健康を支える活動を続けてまいりました。本誌が皆様の学びと実践の糧となり、鍼灸の新たな可能性を拓く一助となれば幸いです。

最後に、第3巻の発刊にあたり、ご寄稿いただいた執筆者の皆様、編集・校正・制作に尽力くださった皆様に、心より感謝申し上げます。

2025年5月

予防鍼灸研究会 会長
金井 友佑